

活人劍「円柱碑」 大内青巒

原文

一揆一擲間不容髮照用
 同時順逆歸宗是什麼人
 行履處明治二十七年我
 與清國開釁而我兵連勝
 清帝使李鴻章來請和偶
 有狂客狙擊鴻章負傷我
 皇軫念勅陸軍軍醫總監
 醫學博士佐藤進令往診
 既而鴻章傷愈一日問博
 士曰卿日常武裝還知戰
 否博士曰我國豈有不知
 戰者哉曰醫事何要劍曰
 是活人劍日夜與百病戰
 必捷之鴻章擊節良久吾
 為之頌曰
 噫活人劍 光過大阿
 武甕伏敵 文珠降魔
 今屬國手 六合絕痾
 明治三十一年元旦
 青巒大内退譔并書



円柱碑の上には活人劍があった

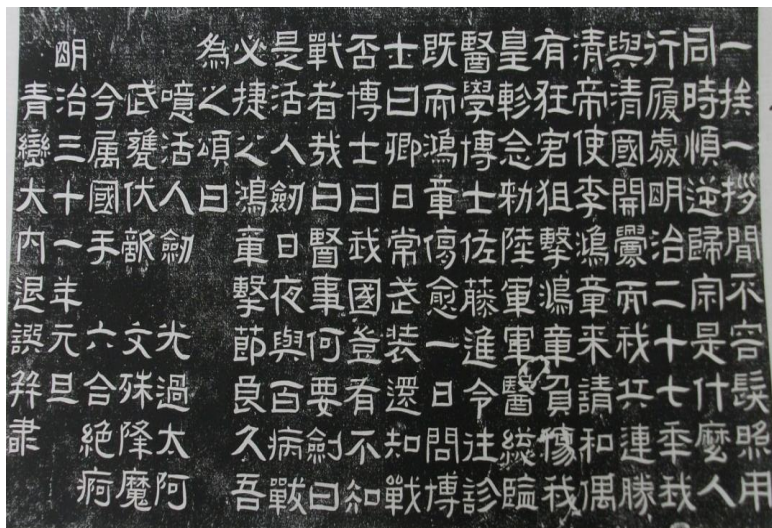
書下し文

一揆一擲、間不容髮、照用同時、順逆歸宗は、是、什麼人の行履する處なり。
 明治二十七年、我、清國と開釁す。而して我が兵連勝せり。清帝、李鴻章を
 して来らしめ、和を請ふ。偶、狂客有て狙撃し、鴻章、負傷す。我が
 皇、軫念して陸軍軍醫總監・醫學博士佐藤進に勅し、往診せしむ。既にして
 鴻章の傷愈ゆ。
 一日、博士に問ひて曰はく、「卿、

日常の武裝は還た戦を知るや否や」と。
 博士曰はく、「我が國に豈に戦を知ら
 ざる者有らん哉」と。曰はく、「醫事
 に何ぞ劍を要せん」と。曰はく、「是
 活人劍なり。日夜、百病と戦ひ、必ず
 之に捷たん」と。鴻章、節を撃つこと
 良久し。

吾、之が為に頌して曰はく、
 噫、活人劍、光は大阿に過ぐ
 武甕の敵を伏せ、文珠の魔を降す
 今や國手に屬し、六合痾を絶つ
 明治三十一年元旦

青巒大内退譔并書



活人劍円柱碑（拓本）